

吳市土木未来プラン（素案）

令和8（2026）年〇月

吳市

目次

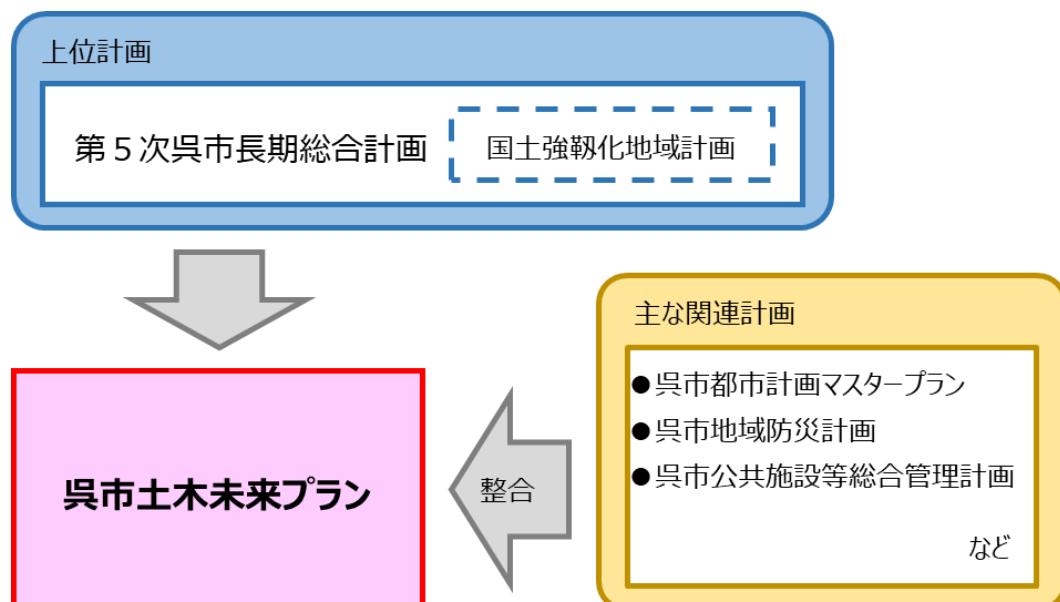
I 呉市土木未来プランの基本事項	1
1 土木未来プラン策定の趣旨	1
2 土木未来プランの期間	1
3 土木未来プランの概要	2
II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること	4
1 呉市の特性	4
2 呉市を取り巻く環境	6
3 社会資本の現状	8
4 今後の土木行政に求められること	10
III 社会資本マネジメント方針	11
1 社会資本の適正な維持管理	12
2 社会資本ストックの有効活用	14
3 社会資本整備の重点化	16
4 三つの基本方針を効果的に進めるための施策	28
IV 実施計画	32
1 実施計画の概要	32
2 呉市事業箇所一覧	34
3 県事業箇所一覧	42
4 国事業箇所一覧	48
V 参考資料	50
1 SWOT分析による戦略の構築	50
2 SDGs（持続可能な開発目標）の取組	52

I 呉市土木未来プランの基本事項

1 土木未来プラン策定の趣旨

- 「呉市土木未来プラン」は、「第5次呉市長期総合計画」が目指す将来像を実現するための政策を着実に推進し、また、「国土強靱化地域計画」に基づく強靱化対策を計画的に推進するため、社会資本のうち道路、河川等に係るマネジメントの基本方針を定めるとともに、当該基本方針に基づき、効率的・効果的に社会資本の整備を推進するための実施計画として策定したものです。
- 「ときめき」という言葉には、「時流に乗り得る」、「期待で胸が高まる」といった意味があります。国土強靱化や地方創生など、時代の変化に対応し、新たな課題を乗り越え、世代を超えて恩恵を受けることのできるまちづくりを進めるため、「土木の未来の計画」であるこの計画の愛称を「ときめきプラン」としました。

【計画の位置付け】



2 土木未来プランの期間

計画期間は、「第5次呉市長期総合計画」の計画期間に合わせ、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

また、戦略的な投資とマネジメントの最適化を図るため、10年間の施策の基本方針と、前期・後期（各5年間）の実施計画で構成します。

構成	R3年度 (2021)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (2030)
基本方針	10年間									
実施計画	前期（5年間）					後期（5年間）				

3 土木未来プランの概要

第5次呉市長期総合計画

呉市の特性

呉市を取り巻く環境

基本構想

《将来都市像》

誰もが住み続けたい、行ってみたい、
人を惹きつけるまち「くれ」

～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～

《未来の呉市の姿》

- 1 質の高い生活が実現されるスマートシティ「くれ」
- 2 新たなチャレンジでビジネスチャンスを生み育てる「くれ」
- 3 都会にはない心地よい暮らしを惹きつける「くれ」
- 4 災害に屈しない強靭なまち「くれ」
- 5 S D G s を通して豊かな未来を創る「くれ」

基本計画

まち・ひと・しごと創生総合戦略

国土強靭化地域計画

構成事業集

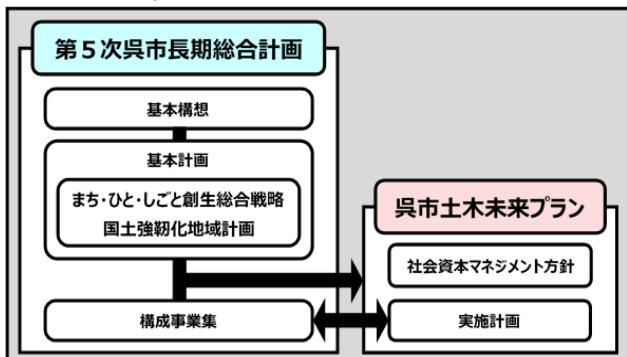
将来都市像を実現するために

今後の土木行政に求められること

- 地域経済と安全で豊かな暮らしを支え続けるための社会資本の戦略的な維持管理の推進
- ストック効果・速効性を重視した計画的な社会資本整備の推進
- 災害に屈しない国土づくりのための防災・減災、国土強靭化の推進
- 気候変動による水災害のリスクに備え、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の推進
- 社会経済活動を支え、国土強靭化のための高速道路ネットワークの充実・強化
- 交流人口の拡大や観光客の移動円滑化等に資する環境整備
- 社会資本の整備・利活用を通じた観光振興
- 安全で魅力あふれる都市構造を構築するコンパクト・プラス・ネットワークの推進
- 持続可能で魅力あふれる社会環境を形成するためのグリーンインフラの推進
- 第三次・担い手 3 法を踏まえた建設業の担い手の育成・確保
- 生産性向上と労働力不足の解消等に向けたインフラ D X の推進
- 地方創生に寄与する公共空間の整備
- 民間の資金・ノウハウを活用した多様な P P P / P F I の推進

など

【構成の体系図】



吳市土木未来プラン

社会资本マネジメント方針

(令和3年度から令和12年度までの10年間)

社会资本を適切にマネジメントしていくための三つの基本方針

①社会资本の適正な維持管理

インフラ施設の老朽化対策	■メンテナンスサイクルの構築 ■事後保全から予防保全への転換
迅速かつ効率的・効果的な維持管理	■日常的なパトロールによる施設の状況把握 ■市民ニーズに応じた迅速・適切な維持管理

②社会资本ストックの有効活用

既存ストックの機能改善	■道路の安全性・信頼性の向上に向けた取組 ■市民ニーズに応じた施設の再生・刷新
既存ストックの多目的利用	■公共空間を活用したにぎわいの創出 ■社会资本の整備・利活用を通じた観光振興
ハードと一体となったソフト対策	■防災意識社会を構築するためのソフト対策 ■地域と一体となった交通安全対策

③社会资本整備の重点化

激化する異常気象と自然災害に対する 防災・減災、強靭化対策	■流域全体・総力戦で挑む治水対策 ■命と暮らしを守る土砂災害対策
災害に強い道路ネットワークの構築	■道路ネットワークの多重性・代替性の強化 ■重要物流道路・緊急輸送道路等における橋りょうの耐震補強
物流の効率化による生産性の向上	■生産性を大きく向上する高速道路ネットワークの機能強化 ■安全で円滑な物流を確保するための幹線道路ネットワークの整備
交流人口の拡大、観光周遊の更なる 活性化	■広域的な交流を支える高速道路ネットワークの機能強化 ■観光資源をつなぐ道路ネットワークの整備
持続可能なまちづくり	■地域産業・地域づくりを支える道路ネットワークの整備 ■コンパクトで全ての人にやさしく、ゆとりとにぎわいのあるまちづくり ■安全・安心に利用できる道路空間の形成
環境保全と循環型社会の構築	■環境に配慮したインフラ施設の省エネルギー化 ■自然と共生するグリーンインフラ

三つの基本方針を効果的に進めるための施策

公共工事の品質確保とその担い手中長期的な育成・確保
インフラDXの活用
多様な主体との連携
施策の点検と事業の見える化

実施計画

(前期・後期の各5年間)

対象施設：道路、河川、砂防、急傾斜、公園

後期5年間の投資予定額

精査中

II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること

1 呉市の特性

(1) 地理的特性

○ 海と山に囲まれた瀬戸内特有の温暖な気候

呉市は、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市です。

市域全体を通じて平たん地が少なく、野呂山、灰ヶ峰など、標高300mから800m前後の山が連なり、地域が分断された地形となっており、また、島しょ部を含めた海岸線延長は約300kmに及び、西日本有数の多島美を有する風光明媚な地勢を有しています。

○ 都市と自然の近接性

地方中枢拠点都市である広島市や広島空港との近接性が高く、豊富な自然環境により身近な海山レジャーが楽しめることから、都市と自然の近接ライフの魅力を有しています。

○ 土砂災害が起こりやすい地質

市域のほとんどが崩れやすい花崗岩系の地質で、地形も急峻な土地が多いことから土砂災害危険箇所も多く、これまで幾度となく災害に見舞われてきました。

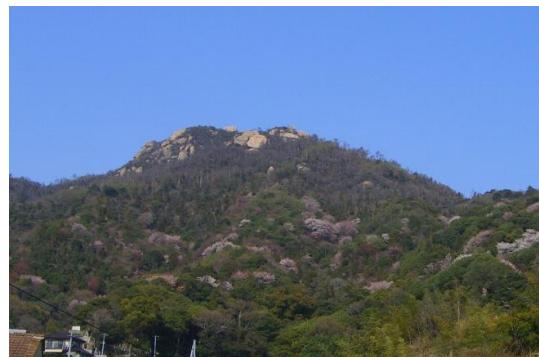
【灰ヶ峰から眺める呉湾】



【海水浴客で賑わうロマンチックビーチかるが】



【桜が彩る火山】



(2) 社会的・経済的特性

○ 戦艦大和を建造した世界有数の海軍工廠とともに発展したまち（平和産業港湾都市）

明治22年の呉鎮守府開庁を契機に本格的な市街地が形成され、最盛期の昭和18年には人口が40万人を超える、日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちとなりました。当時の海軍が築いた水道施設や港湾施設、病院などの都市基盤は、市民生活に欠かせないものとして現在も活用されています。

○ トップシェアの製造業と最先端技術が集積する「ものづくり」のまち

呉市は、戦後、自動車・航空機部品、半導体・発電用設備、造船、鉄鋼、木材、パルプなどを生産する企業が立地し、独自技術や全国的、世界的に高いシェアを持つ企業を有する「ものづくり」のまちとなり、広島県の主要都市のひとつとして発展してきました。

○ 観光が基幹産業のひとつに

平成17年に開館した大和ミュージアムや、市内全域にある個性的で魅力あふれる観光資源を活用し、自然豊かな瀬戸内やロマンあふれる歴史・文化など、地域の特色を生かした観光産業が地域経済を支えています。

○ 特色ある多くの地域資源を有するまち（国内有数の生産量を誇る農水産業）

平成15年から平成17年にかけての近隣8町との合併により、美しい自然や歴史、文化、地域産業など、特色ある多くの地域資源を有することとなりました。

農業分野では、島しょ部での柑橘等の園芸農業と内陸部での水田農業が営まれ、漁業分野では、国内有数の生産量を誇るカキ養殖や、シラス漁が盛んに営まれています。

【海軍工廠の技を受け継ぐ造船技術】



【大和ミュージアム】



【伝清盛塚と音戸大橋】



【カキ養殖の抑制棚】



II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること

2 呉市を取り巻く環境

(1) 人口の動向

- 人口減少と少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少

全国的に人口減少、少子高齢化が進んでおり、若年層の東京一極集中が拡大する傾向にあります。呉市も同様に、人口減少、少子高齢化が進んでいます。

(2) 経済の動向

- 経済のグローバル化の進展

貿易や投資の拡大を背景として、産業構造の変化やアジア諸国の急速な経済成長により、国境を越えた資本や労働力の移動が活発化しており、経済のグローバル化が進展しています。

- 持続可能な観光地域づくりの推進

地域の成長戦略の柱、活性化の切り札である観光について、持続可能なあり方で、観光産業の「稼げる」産業への変革を進めつつ、持続可能な観光地域づくりやインバウンド誘客、国内交流拡大に戦略的に取り組むことが求められています。

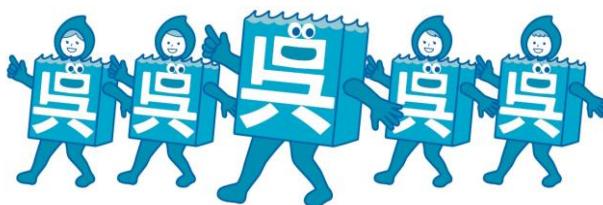
また、観光資源としての既存ストックの利活用や、観光客の移動円滑化等にも資する社会資本の整備を通じて、地域の観光振興への貢献が期待されています。

- デジタル技術の急速な進展と働き方改革

I o TやA I（人工知能）などのデジタル技術の活用により、社会に存在する課題を克服することが可能となる新たな時代、Society5.0へ向けて、社会全体の発展が求められています。

また、建設業界では、他産業と比べて高齢化が進行しており、人材確保や育成を進めていくことが求められています。

デジタル技術の活用による生産性向上や働き方改革等への取組が期待されています。



用語 解説

グローバル化…社会的あるいは経済的な関連が、国家や地域などの境界を越えて、世界規模に拡大して様々な変化を引き起こす現象

インバウンド…外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す

I o T…Internet of Things（モノのインターネット）の略称

Society5.0…デジタル革新と多様な人々の創造・想像力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会

(3) 災害等への備え

○ 災害に強いまちづくりの推進

近年、全国各地で、台風や集中豪雨などによる甚大な被害が発生しています。

呉市では、平成30年7月豪雨において、市内で182件の土砂災害が発生し、近年まれにみる大きな被害を受け、各地で道路や鉄道など交通機能が寸断されるなど、市民の生活や経済活動に大きな影響を及ぼしました。

また、今後は、大規模地震の発生が危惧されており、自然災害への懸念が高まっていることから、災害に強いまちづくりを推進することが求められています。

(4) 行財政改革の取組

○ 厳しい財政状況における社会資本の老朽化に伴う費用の増大

人口減少・少子高齢化の進展や行政ニーズの多様化を始め、呉市を取り巻く社会情勢は今後も大きく変化するとともに、社会保障関係費や公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増加などの影響により、引き続き、厳しい財政状況が続くことが見込まれます。

そうした中、道路、公園等の社会資本についても、その多くが高度経済成長期に建設され、耐用年数を迎つつあるため、老朽化に伴う維持管理・更新に要する費用の増大が懸念されています。

そのため、限られた財源の中で、計画的に社会資本の整備を進めていく必要があります。

【平成30年7月豪雨で被災した
天応地区における砂防えん堤の整備】



【平成30年7月豪雨で被災した
安浦町中畠地区における砂防えん堤の整備】



II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること

3 社会資本の現状

（1）これまでの取組により形成された「強み」

これまでの取組により築き上げた社会資本ストックは、市民の安全で快適な生活の維持や様々な社会経済活動を支える「強み」となっています。

- ◆ 歴史的な背景により、充実した社会資本が早期に整備されたまち
- ◆ 広島呉道路（クレアライン）による地方中枢拠点都市である広島市との近接性
- ◆ 東広島・呉自動車道の全線開通による広島空港との近接性
- ◆ 放射環状型道路網の整備による近隣都市との強い連携
- ◆ 代替性・多重性が一定程度確保された幹線道路ネットワーク
- ◆ 河川改修の進展により、水辺空間に集積した都市機能
- ◆ 過去の土砂災害を教訓とした全国トップレベルの土砂災害対策の整備率
- ◆ 多島美の景観と約300 kmの長い海岸線を有するまち
- ◆ 風光明媚でブルーラインが整備されたサイクリングロードネットワーク
(とびしま海道、かきしま海道、さざなみ海道)
- ◆ 国の重要文化財や日本遺産などに指定され、歴史的価値のある土木施設の存在
- ◆ 平成30年7月豪雨発災直後から災害対応に懸命に取り組んだ建設業の存在
- ◆ 民間からの投資を呼び込むことが可能な市有財産

【平和産業港湾都市として発展した呉市】



【広島呉道路（クレアライン）】



【東広島・呉自動車道】



【とびしま海道サイクリングロード】



用語解説

ストック…既に整備されている道路、公園、下水道等の都市基盤施設や、住宅、商業施設、業務施設、工業施設等のこと

(2) 今後も改善・克服すべき「弱み」

激化する自然災害等に対する備えや、社会資本の老朽化対策、重要物流道路等における橋りょうの耐震補強など、さらに整備が必要な部分については、今後も改善・克服すべき「弱み」となっています。

- ◆ 早熟都市であり、全国平均を上回る社会資本施設の老朽化率
- ◆ 高速道路網が暫定2車線整備であり、災害に対する乏しい復元・回復力
- ◆ 定時性や速達性の向上が課題となっている空港アクセス
- ◆ 現在の交通需要に対応できていない幹線道路
- ◆ 主要幹線道路が脆弱で、大雨による事前交通規制で分断されるまち
- ◆ 気候変動のスピードに対応しきれていない河川
- ◆ 市内を占める高い土砂災害（特別）警戒区域の面積割合
- ◆ 巨大地震、気候変動による沿岸被害のリスクの増大
- ◆ ハード・ソフト両面において利用環境の更なる向上が求められているサイクリングロード
- ◆ 魅力や価値を十分に活用・発信できていない社会インフラ
- ◆ 建設業の担い手不足等による公共工事の品質確保と災害対応能力の低下への懸念
- ◆ 民間の持つノウハウ・スキルを十分に生かしきれていない公共事業

【建設後 50 年以上が経過し老朽化により
鉄骨が露出した「中田橋」（新開・小塚線）】



【平成 30 年 7 月豪雨で被災した
広島呉道路（クレアライン）】



【平成 30 年 7 月豪雨で浸水した安浦町中心部】



【国指定重要文化財の本庄水源地えん堤】



II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること

4 今後の土木行政に求められること

- 「第5次呉市長期総合計画」では、将来都市像に『誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～』を掲げています。
- その将来都市像を実現するためには、SDGsの理念に沿いながら、社会資本の「強み」は最大限に活用し、「弱み」は改善・克服していく取組が必要となります。
- 社会資本の整備は、未来への投資であり、質の高い社会資本ストックを将来世代に確実に引き継いでいく必要があります。
- 「第5次呉市長期総合計画」が掲げる将来都市像を実現させるために今後の土木行政に求められることは、次のとおりです。

今後の土木行政に求められること

- ◆ 地域経済と安全で豊かな暮らしを支え続けるための社会資本の戦略的な維持管理の推進
- ◆ ストック効果・速効性を重視した計画的な社会資本整備の推進
- ◆ 災害に屈しない国土づくりのための防災・減災、国土強靭化の推進
- ◆ 気候変動による水災害のリスクに備え、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の推進
- ◆ 社会経済活動を支え、国土強靭化のための高速道路ネットワークの充実・強化
- ◆ 交流人口の拡大や観光客の移動円滑化等に資する環境整備
- ◆ 社会資本の整備・利活用を通じた観光振興
- ◆ 安全で魅力あふれる都市構造を構築するコンパクト・プラス・ネットワークの推進
- ◆ 持続可能で魅力あふれる社会環境を形成するためのグリーンインフラの推進
- ◆ 第三次・担い手3法を踏まえた建設業の担い手の育成・確保
- ◆ 生産性向上と労働力不足の解消等に向けたインフラDXの推進
- ◆ 地方創生に寄与する公共空間の整備
- ◆ 民間の資金・ノウハウを活用した多様なPPP／PFIの推進など

用語 解説

SDGs…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2030年までの国際目標
コンパクト・プラス・ネットワーク…医療・福祉・商業等の生活機能を確保しながら、地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める取組
グリーンインフラ…自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方
担い手3法…品確法（公共工事の品質確保の促進に関する法律）、建設業法、入契法（公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律）
インフラDX…デジタル技術を活用して、社会資本や公共サービスなどを変革することで、インフラへの国民理解の促進と安全・安心で豊かな生活を実現する取組
PPP／PFI…公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術力を活用して行う手法

III 社会資本マネジメント方針

- 呉市の社会資本は、歴史的背景から1950年から1970年にかけて整備されたものが多く、土木施設の老朽化のペースは他都市を大きく上回ることから、老朽化対策は喫緊の課題となっており、施設の長寿命化と財政負担の軽減を両立するためには、予防保全を徹底する必要があります。
- 一定の社会資本ストックが形成され、公共事業関係費の大幅な増額が見込めない状況にあることから、新たな設備投資に際しては、これまで以上に選択と集中を図り、計画的に整備を推進することが重要です。
- 既に整備された社会資本の中には、社会経済情勢の変化から潜在機能を十分に発揮できていない施設もあることから、少ない投資で既存ストックを再生し最大限活用するなど、市民ニーズに迅速に応えることが求められています。
- 巨大地震の切迫性や自然災害の激甚化、頻発化を踏まえ、河川、砂防をはじめとした事前防災対策や、高速道路の4車線化、橋りょうの耐震補強等の災害に強い道路ネットワークの構築は、最も重要な課題の一つです。
- 呉市の将来像の実現に向けて、社会資本を適切にマネジメントしていくために三つの基本方針「社会資本の適正な維持管理」「社会資本ストックの有効活用」「社会資本整備の重点化」を定め、取り組みます。
- 基本方針を効果的に進めるため、「公共工事の品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保」や、「インフラDXの活用」「多様な主体との連携」「施策の点検と事業の見える化」に取り組みます。

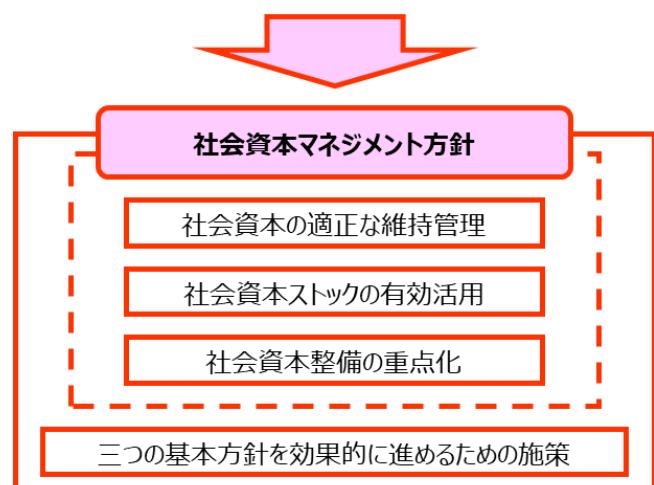
※ 三つの基本方針は、令和3年度から令和12年度までの10年間とっています。

なお、「取組の方向性」と「指標」については、後期5年間の実施計画期間中の取組と、指標を記載しています（再掲含む）。

※ 「強み」を生かし、「弱み」を克服するための戦略を構築するため、SWOT分析を参考に用いています。

※ SDGs（持続可能な開発目標）の取組として、施策に関連するSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標（ゴール）を示しています。

第5次呉市長期総合計画が掲げる将来都市像の実現



（SWOT分析の詳細、SDGsの取組については、参考資料を参照）

SWOT分析…戦略を企画立案する際に、外的・内的要因などの現状を分析する戦略計画手法の一つ

III 社会資本マネジメント方針

1 社会資本の適正な維持管理

インフラ施設の老朽化対策と、迅速かつ効率的・効果的な維持管理

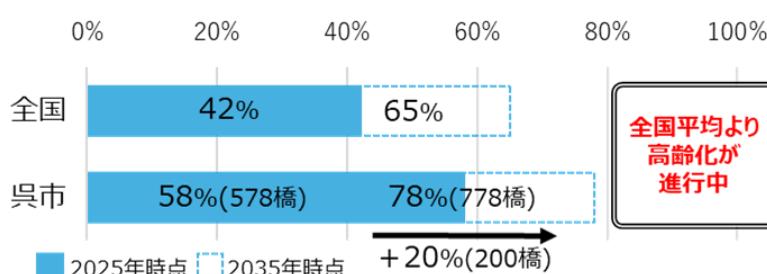
目指す姿

社会資本の機能を適切に維持・発揮させ続け、安全で快適な日常生活や社会経済活動を支えています。

現状と課題

- ◆ 呉市の社会資本の老朽化のペースは他都市を大きく上回っています。
- ◆ これまでに整備された社会資本を良好な状態で長期的に活用する必要があります。
- ◆ 各施設を日頃から適切に点検し、市民ニーズに対応した維持管理を行うことが重要です。

建設後 50 年を経過した呉市が管理する橋りょうの割合



出典：道路メンテナンス年報 2024 年度

【コンクリートが剥がれ、鉄筋が腐食していた「かもめ橋」の橋脚（市道幸町海岸線）】



健全度III



呉市の土木施設の状況（令和7年3月末現在）

区分	路線数	実延長
一般道路	1級市道	110 路線
	2級市道	141 路線
	その他の市道	5,274 路線
	一般道路計	5,525 路線
自転車歩行者道	9 路線	1,030 m
橋りょう	995 橋	28,966 m
横断歩道橋	16 橋	390,778 m
トンネル	9 本	1,342 施設
舗装面積	7,555 km ²	都市公園
		342 箇所

用語解説

健全度…施設の健全性の診断を 4 段階で行ったもの（I 健全、II 予防保全段階、III 早期措置段階、IV 緊急措置段階）

※ I は健全な状態、II は直ちに補修を必要としない状態、III は早期に補修が必要な状態、IV は緊急に補修が必要な状態

1級市道…集落並びに国道及び県道を相互に連絡する等、基幹的道路網を形成するに必要な幹線道路

2級市道…一級市道を補完する等、基幹的道路網を形成するに必要な幹線道路

準用河川…一級河川・二級河川以外で、市町村長が指定した河川

普通河川…一級河川・二級河川・準用河川のいずれでもない河川



取組の方向性

インフラ施設の老朽化対策

◆ メンテナンスサイクルの構築

点検⇒診断⇒措置⇒記録⇒（次の点検）の業務サイクルを通して、長寿命化計画等の内容を充実させた維持管理を推進

◆ 事後保全から予防保全への転換

損傷が深刻化してから大規模な修繕を行う「事後保全」から、損傷が軽微なうちに修繕を行う「予防保全」への転換により、更新費用の抑制等によるコスト縮減、施設の長寿命化を推進

老朽化対策の推進

【コンクリートが剥がれ、鉄筋が腐食した橋脚の補修（かもめ橋）】

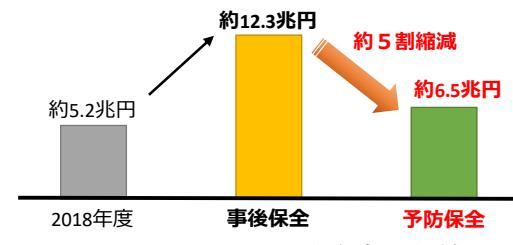


【全国初の国直轄によるトンネル修繕代行事業（仁方隧道）】



国の将来の維持管理・更新費用の推計結果

30年後（2048年度）の見通し



30年後（2048年度）

30年後（2048年度）の見通し（累計）

	30年間の合計 (2019~2048年度)
事後保全	約280兆円
予防保全	約190兆円

約3割削減

出典：国土交通省

迅速かつ効率的・効果的な維持管理

◆ 日常的なパトロールによる施設の状況把握

日々のパトロール等により、道路や河川などの異常を早期に把握し、適切な維持管理を推進

今後は、IoTやAI（人工知能）などのデジタル技術を活用し、点検等の効率化を推進

◆ 市民ニーズに応じた迅速・適切な維持管理

迅速な修繕・対応を基本として、利用需要の変化や、施設の重要度等を考慮して適切な維持管理を推進

呉市道路等損傷通報システムの導入



※道路や公園などの不具合を発見した際に、スマートフォンから簡単に通報できるシステム

指標

指標名

現状（R 6）

目標（R 12）

調整中

長寿命化計画…維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取組の方向性を明らかにする計画

III 社会資本マネジメント方針

2 社会資本ストックの有効活用

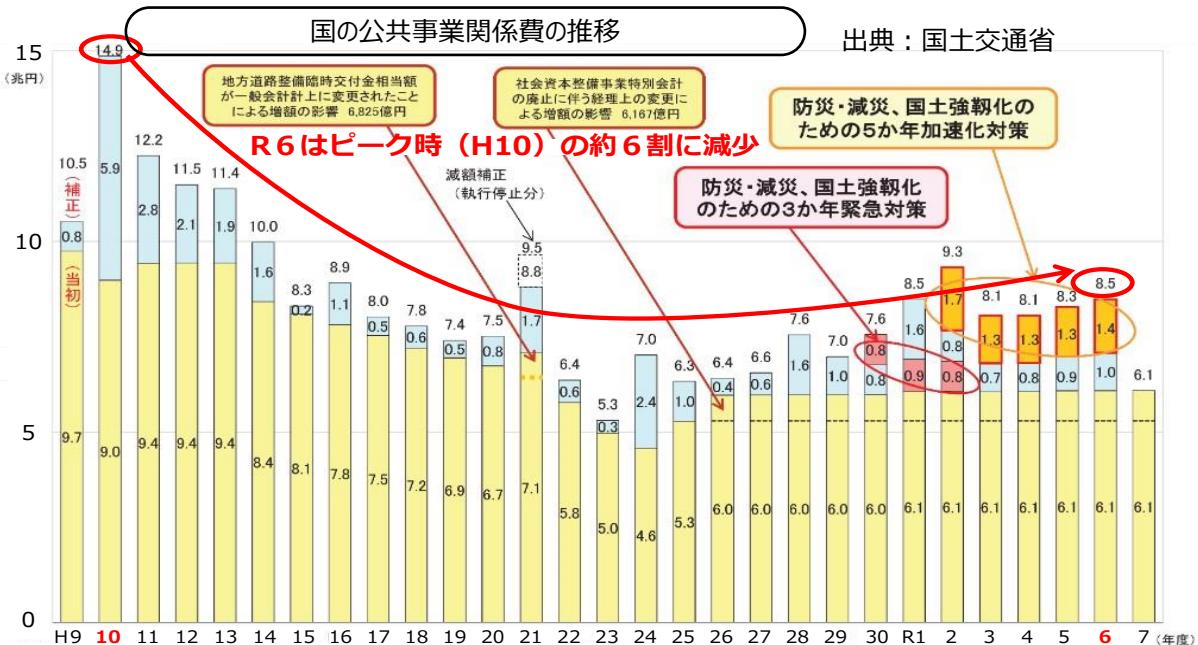
既存ストックの機能改善・多目的利用、ハードと一体となったソフト対策

目指す姿

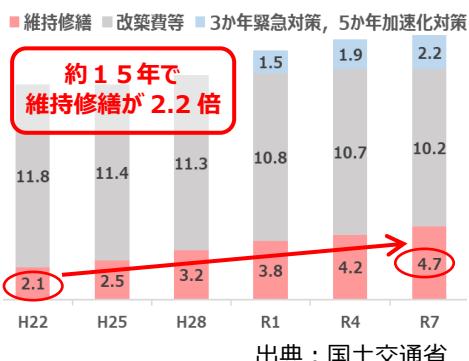
社会資本の潜在機能を最大限に生かし、市民の安全で快適な生活の維持やにぎわいの創出に寄与しています。

現状と課題

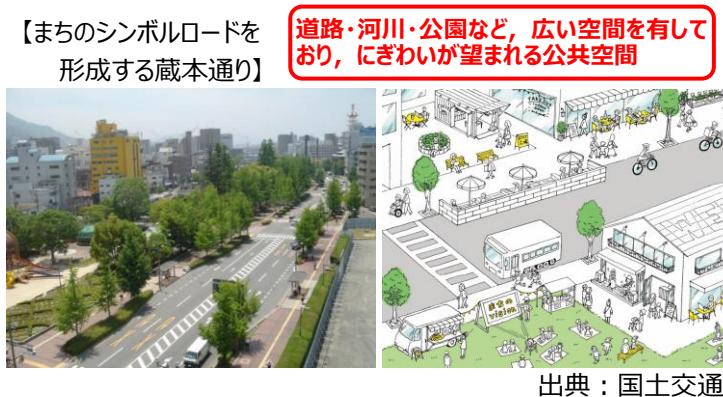
- ◆ 少ない投資で迅速に効果を発揮させる取組が必要です。
- ◆ 社会経済情勢の変化を受け、社会資本に求められる役割や機能も変化しています。
- ◆ ハード対策に取り組むとともに、ソフト対策の一層の充実・強化が必要です。



国:道路関係予算の推移



まちなか公共空間の構造特性



用語解説

取組の方向性

既存ストックの機能改善

◆ 道路の安全性・信頼性の向上に向けた取組

暫定2車線区間の飛び出し・正面衝突事故の対策としてのワイヤロープの設置、安定的な物流に資する道路の無電柱化、安全で快適な自転車通行空間の整備、側溝蓋掛けや転落防止柵設置による小規模な改良など、既存道路の更なる機能向上に向けた取組を推進

【ワイヤロープの設置】



※東広島・呉自動車道と同様な道路にワイヤロープを設置し、対向車線への飛び出し事故が約96%減少

◆ 市民ニーズに応じた施設の再生・刷新

子供向け遊具から健康遊具への更新、狭い道路での待避所設置やグリーンベルトの整備など、社会経済・利用状況の変化に応じた施設のリノベーションを推進

【健康遊具への更新(小倉新開公園)】



【グリーンベルトの整備】



既存ストックの多目的利用

◆ 公共空間を活用したにぎわいの創出

蔵本通りと堺川沿いの中央公園一帯のまちなか公共空間を、居心地がよく歩きたくなる、人を中心のウォーカブルな空間とするなど、多様な人が出会い、交流し、滞在するにぎわい空間の創出を推進

【まちなか公共空間の社会実験】



【とびしまサイクリングロード】



◆ 社会資本の整備・利活用を通じた観光振興

多島美とインフラが生み出す絶景を活用したサイクリルツーリズム、公共土木施設を活用したインフラツーリズムなどを推進

【防災施設の利用説明会】



【学校での防災教育】



ハードと一体となったソフト対策

◆ 防災意識社会を構築するためのソフト対策

防災情報伝達アプリや一斉電話伝達サービスなどによる防災情報の周知、ハザードマップの作成、河川監視カメラの活用、防災イベント、学校での防災教育など、市民の防災意識・地域防災力の向上に資する取組を推進

【交通安全教室】



【通学路の安全点検】



指標

指標名

現状 (R 6)

目標 (R 12)

調整中

ワイヤロープ…重大事故につながりやすい暫定2車線区間での正面衝突事故防止のための車両用防護柵

グリーンベルト…歩車道の区分けない道路において、車道と路側帯を視覚的に区分することで交通事故防止を図る取組

リノベーション…施設が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生されること

ウォーカブル空間…まちなかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと変更する取組

サイクリルツーリズム…自転車を活用した観光の総称

インフラツーリズム…橋、ダム、港などのインフラを公開・開放して、観光を通じた地域振興に資するインフラ活用の取組

III 社会資本マネジメント方針

3 社会資本整備の重点化

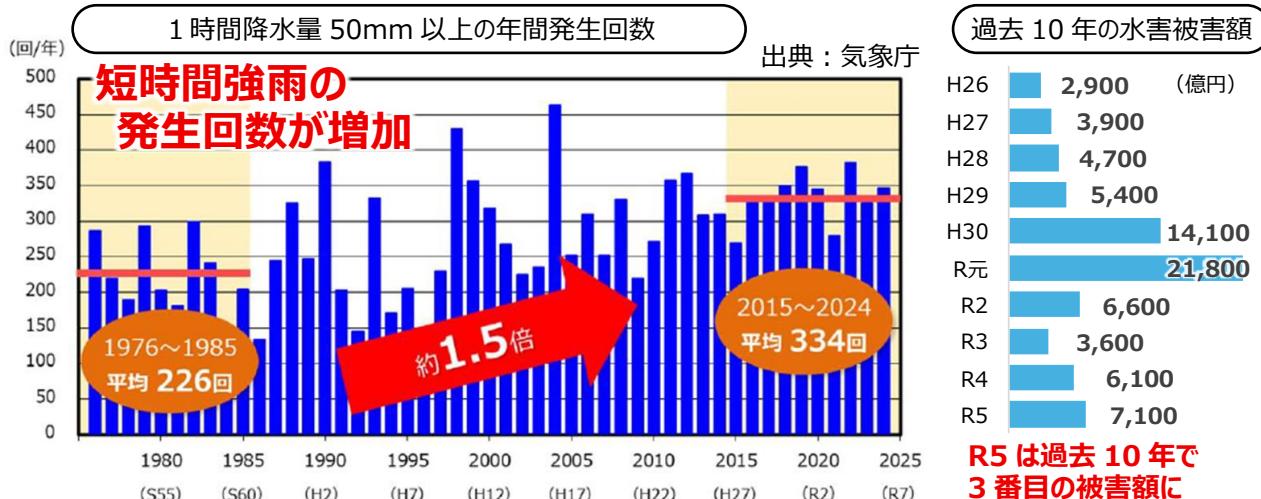
重点化項目① 激化する異常気象と自然災害に対する防災・減災、強靭化対策

目指す姿

脅威である自然災害による影響を最小限にする防災・減災、強靭化対策が着実に進み、まちの安全・安心の確保に寄与しています。

現状と課題

- ◆ 異常気象の影響による水害や土砂災害が頻発化・激甚化しています。
- ◆ 気候変動のスピードに対応するには、あらゆる関係者が一体となった治水対策が必要です。
- ◆ 第1次国土強靭化実施中期計画に基づく取組を着実に推進することが必要です。



第1次国土強靭化実施中期計画

推進が特に必要となる施策

- I. 防災インフラの整備・管理
○関係府省庁の枠を越えた流域治水対策等の推進ほか
- II. ライフラインの強靭化
○予防保全型メンテナンスへの早期転換ほか
- III. デジタル等新技術の活用
○一元的な情報収集・提供システムの構築ほか
- IV. 官民連携強化
○立地適正化計画等と連携した国土強靭化施策の推進ほか
- V. 地域防災力の強化
○発災時における民間・NPO・ボランティア等の活動環境の整備ほか

計画期間・対策の事業規模

- ・令和8年度～令和12年度の5年間
- ・今後5年間でおおむね20兆円強程度

出典：
国土交通省

事前防災対策の重要性



用語解説

事前防災対策…災害の発生を想定した上で、それによる人的・経済的被害を軽減するために未然に対策を講じること

取組の方向性

◆ 流域全体・総力戦で挑む治水対策

気候変動による水災害の増大に備え、抜本的な河川改修、有事に備えた排水ポンプ車の配備など、あらゆる関係者により様々な取組を流域全体で行う「流域治水」対策を推進

県：二級河川野呂川水系（野呂川・中畠川）、
二級河川堺川水系内神川
市：普通河川吉浦大川、普通河川大神川、
普通河川寒那南川、準用河川内平川など
特定都市河川指定（黒瀬川水系黒瀬川等）
による雨水浸透阻害行為の許可 など

流域治水のイメージ



出典：国土交通省

特定都市河川の指定による「流域治水」の推進

特定都市河川の指定により、法的枠組みを活用して、ハード整備の加速に加え、国・都道府県・市町村・企業等の関係者の協働で土地利用規制や流出抑制対策等に取り組み、流域全体の治水対策を一層推進します。

特定都市河川の指定

流域水害対策協議会の設置

流域水害対策計画の策定

計画に基づき、関係者の協働により、「流域治水」を本格的に実践

- みんなが参加できる仕組み（流域水害対策計画の策定等）
- 計画に基づくハード対策の加速化
- 雨水流出の増加抑制（雨水浸透阻害行為の許可等）
- 流域における貯留機能の保全（貯留機能保全区域の指定等）
- 水害リスクを減らすまちづくり（浸水被害防止区域の指定）

◆ 命と暮らしを守る土砂災害対策

安全・安心かつ豊かで活力のある地域を構築するため、砂防事業（国・県）、急傾斜地崩壊対策事業（県・市）による土砂災害対策を推進

【砂防事業】

国：天応地区における直轄砂防事業
県：中須賀川、中小坪川、小原川 など

【急傾斜地崩壊対策事業】

県：吉浦宮花町4、小用一丁目A、畑3丁目
市：牛ヶ迫地区、小仁方地区、坪井2丁目地区、納地区 など

【国直轄砂防事業 背戸の川砂防施設（天応地区）】



指標

指標名

現状（R 6）

目標（R 12）

調整中

一級河川…国土保全または国民経済上特に重要な水系で、政令で指定したものに係る河川で、国土交通大臣が指定した河川

二級河川…一級水系以外の水系で公共の利害に重要な関係があるものに係る河川で、都道府県知事が指定した河川

III 社会資本マネジメント方針

3 社会資本整備の重点化

重点化項目② 災害に強い道路ネットワークの構築

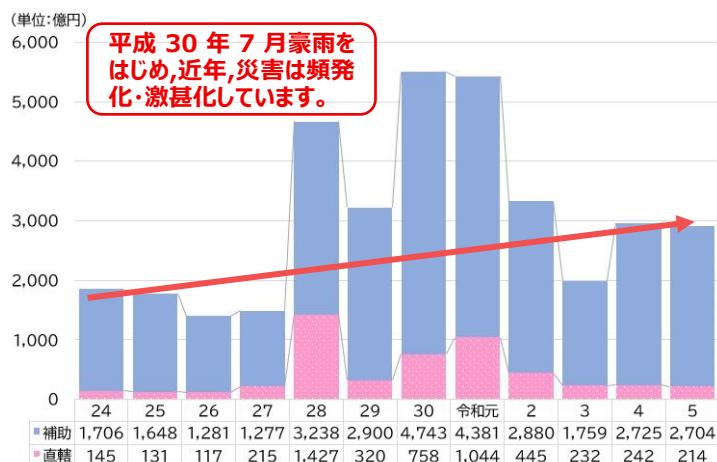
目指す姿

災害時に「被災する道路」から「救援する強靭道路」としてレジリエンスと信頼性の高い道路ネットワークを構築し、災害に強いまちづくりの実現に寄与しています。

現状と課題

- ◆ 自然災害が頻発化・激甚化しているため、強靭な道路ネットワークが必要です。
- ◆ 大雨に伴う事前通行規制路線の、安全で円滑・安定した交通機能の確保が必要です。
- ◆ 切迫する巨大地震に備え、橋りょうの耐震化が必要です。

近年の災害復旧決定工事費の推移



【平成 30 年 7 月豪雨で被災した暫定 2 車線の広島呉道路(クレアライン)】



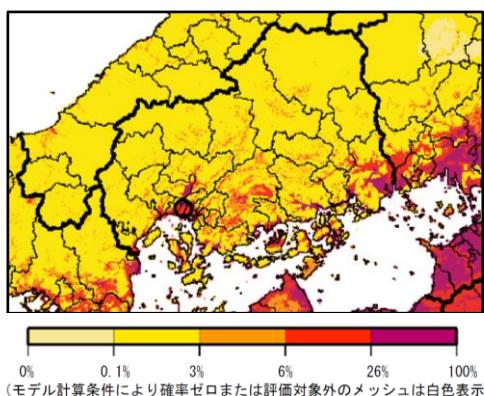
出典：NEXCO 西日本 HP

【大雨で事前通行規制がかかる主要地方道呉平谷線】

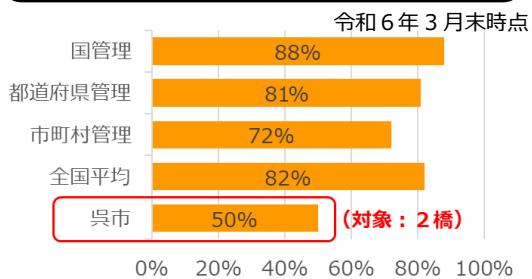


切迫する巨大地震

【今後 30 年間に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率】



緊急輸送道路の橋りょうの耐震補強進捗率



用語解説

レジリエンス…困難などに遭遇したときに回復・復元すること

取組の方向性

◆ 道路ネットワークの多重性・代替性の強化

災害時に「被災する道路」から「救援する強靭道路」として、レジリエンスと信頼性の高い道路ネットワークの整備を推進

NEXCO：広島呉道路（クレアライン）4車線化
国：東広島・呉自動車道阿賀ICの立体化
県：主要地方道呉平谷線（上二河～此原）
市：中央二河町線 など



出典：NEXCO 西日本 HP

◆ 重要物流道路・緊急輸送道路等における橋りょうの耐震補強

災害時における安全な避難路及び物流ルートの確保、交差する鉄道や道路等への落橋による2次的な被害を防止するための橋りょうの耐震補強対策を推進

県：早瀬大橋（国道487号）
市：梅木大橋（梅木吉浦東本町線）、長大橋（天応大浜長谷線）など



指標

指標名

現状（R6）

目標（R12）

調整中

緊急輸送道路…災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線

重要物流道路…平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、物流上重要な道路輸送網として国土交通大臣が指定した路線

III 社会資本マネジメント方針

3 社会資本整備の重点化

重点化項目③ 物流の効率化による生産性の向上

目指す姿

企業活動を支える物流基盤の充実により、競争力や経済基盤の強化に寄与しています。

現状と課題

- ◆ 物流の効率化のため、高速道路ネットワークの機能強化が必要です。
- ◆ 工場の集積地周辺は交通量の増加に対応しきれず、主要渋滞箇所が点在しています。
- ◆ 放射状道路を補完する環状型道路の機能強化が必要です。



用語解説

主要渋滞箇所 …交通の集中等により渋滞が発生している箇所



取組の方向性

◆ 生産性を大きく向上する高速道路ネットワークの機能強化

地域経済の発展と、暮らしや利便性の向上に資する
安全で使いやすい高速道路ネットワークの整備を推進

〔 NEXCO : 広島呉道路（クレアライン）4車線化
国 : 東広島・呉自動車道阿賀 IC の立体化 〕

【広島呉道路天応トンネル貫通式（R7.7）】



◆ 安全で円滑な物流を確保するための幹線道路ネットワークの整備

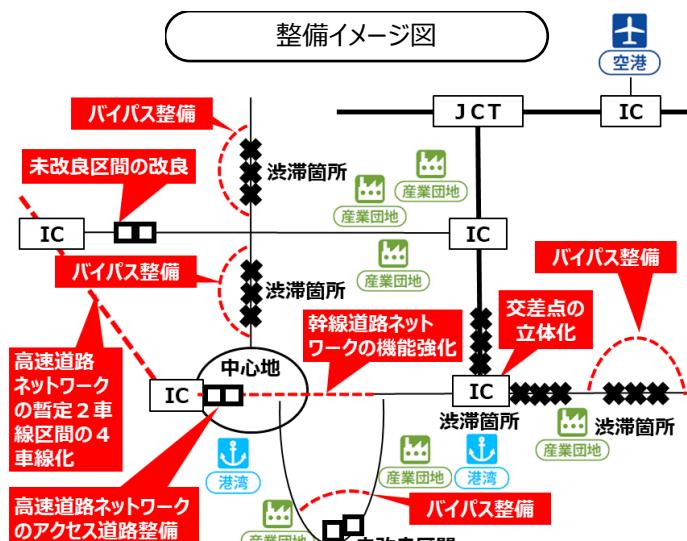
渋滞を緩和し、物流の円滑化・効率化を図るための道路整備を推進

〔 国 : 一般国道 185 号（広～安浦） 〕

〔 県 : 主要地方道呉環状線（警固屋、天応～焼山）、主要地方道呉平谷線 〕

〔 上二河～此原 〕、都市計画道路焼山押込線（焼山北～焼山泉ヶ丘、焼山北）

〔 市 : 中央二河町線 など 〕



呉都市圏サービスレベル向上検討会

呉都市圏における
局所対策を検討■サービスレベル
向上検討会の流れ

・区間の設定
・サービスレベルの設定

・要因分析
・局所対策（案）

局所対策の決定

【185号先小倉交差点
周辺の混雑状況（朝）】

出典：国土交通省

指標

指標名

現状（R6）

目標（R12）

調整中

3 社会資本整備の重点化

重点化項目④ 交流人口の拡大、観光周遊の更なる活性化

目指す姿

交流人口の拡大や観光客の移動円滑化等に資する環境が整備され、産業の活性化・観光周遊の促進に寄与しています。

現状と課題

- ◆ 産業活性化、観光周遊等を促す高速道路ネットワークの機能強化が必要です。
- ◆ 空港アクセスの定時性、速達性の向上が必要です。
- ◆ 滞在時間の確保・拡大と観光客のストレス軽減のため、渋滞の解消が必要です。





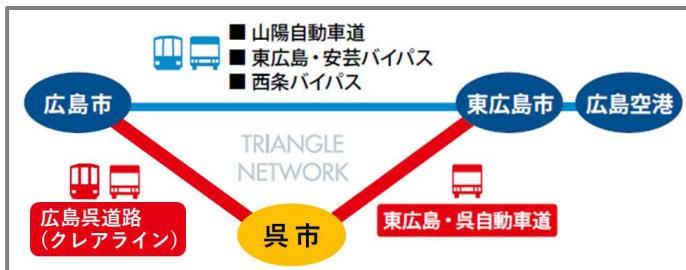
取組の方向性

◆ 広域的な交流を支える高速道路ネットワークの機能強化

広島市との連携強化、広島空港への定時性・速達性の向上に資する道路整備を推進

〔NEXCO：広島呉道路（クレアライン）4車線化
国：東広島・呉自動車道阿賀ICの立体化〕

トライアングルネットワーク



【広島呉道路4車線化完成イメージ】



◆ 観光資源をつなぐ道路ネットワークの整備

快適で円滑な移動を確保し、広域的な観光周遊を促すための道路整備を推進

〔国：一般国道185号（広～安浦）
県：主要地方道呉平谷線（上二河～此原），一般県道川尻安浦線（安浦中央）
市：中央二河町線〕

観光周遊を促す道路整備の考え方



【観光周遊を促す道路ネットワークの形成】

● 高速ICと観光地をつなぐ道路 ● 広島空港や市街地と観光地をつなぐ道路 ● 隣接し合う観光地をつなぐ道路

指標

指標名

現状（R 6）

目標（R 12）

調整中

III 社会資本マネジメント方針

3 社会資本整備の重点化

重点化項目⑤ 持続可能なまちづくり

目指す姿

人にやさしい社会資本の整備を推進し、誰もが住み続けたくなるような、安全で人を惹きつけるまちづくりの実現に寄与しています。

現状と課題

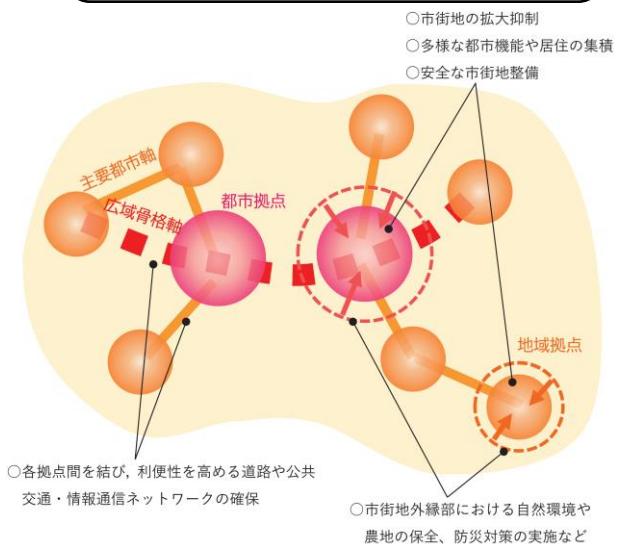
- ◆ 合併により行政区画が広がり、地域の特色を生かした事業に取り組んでいます。
- ◆ 人口減少が進む中、人や企業を惹きつける活力あるまちづくりを進める必要があります。
- ◆ 交通事故は減少していますが、更なる通学路の安全対策が必要です。

地域の特産品を運ぶ重要な道路

【豊島で唯一の未整備区間が残る一般県道豊島線（内浦）】

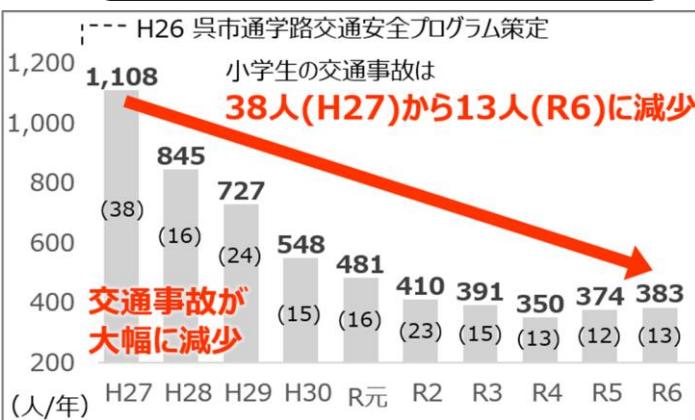


コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



出典：呉市都市計画マスターplan

呉市の交通事故の状況



出典：広島県警 HP より作成



【歩道が整備されていない通学路】

用語解説

通学路交通安全プログラム…通学路の交通安全の確保に向けた着実かつ効果的な取組を推進するため、地域ごとに教育委員会、学校、PTA、警察、道路管理者等により策定される基本方針

※国・県事業については調整中

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



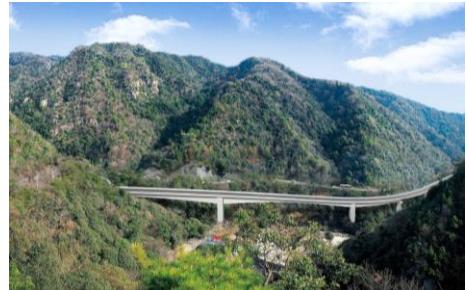
取組の方向性

◆ 地域産業・地域づくりを支える道路ネットワークの整備

地域間の連携を強化し、地域の持続的発展を支えるための道路整備を推進

国：一般国道 185 号（広～安浦）
県：主要地方道呉平谷線（上二河～此原）,
一般県道豊島線（内浦）,
一般県道中大迫清田線（先奥）
市：焼山矢野線、川尻本線 1 号線、沖友一周線 など

【主要地方道呉平谷線（上二河～此原）
完成イメージ】



◆ コンパクトで全ての人にやさしく、ゆとりとにぎわいのあるまちづくり

防災・減災を主流化したコンパクトなまちづくり、市民が集う多目的利用が可能な公園の整備、官民のストックが集積する「まちなか」を官民連携の取組により人を中心のウォーカブルな空間に再構築するなど、コンパクト・プラス・ネットワークを推進

国：一般国道 185 号（広～安浦）
県：主要地方道呉平谷線（上二河～此原）,
都市計画道路焼山押込線（焼山北～焼山泉ヶ丘、焼山北）
市：中央公園（防災公園整備、まちなか公共空間整備）

【中央公園(呉まちなか公共空間デザイン計画)
イメージ】



◆ 安全・安心に利用できる道路空間の形成

安全で快適な歩行空間・自転車通行空間を形成するため、通学路や生活道路等における交通安全対策や、バリアフリー化、無電柱化を推進

国：一般国道 31 号（大屋橋東詰交差点）,
一般国道 185 号（川尻、広本町）
県：主要地方道呉環状線（郷原～苗代）,
主要地方道呉平谷線（押込）,
一般県道川尻安浦線（安浦中央）
市：中央二河町線、横路 4 丁目白石線、焼山矢野線 など

【通学路の安全対策として整備された
大新開吉松線】



指標

指標名

現状（R 6）

目標（R 12）

調整中

III 社会資本マネジメント方針

3 社会資本整備の重点化

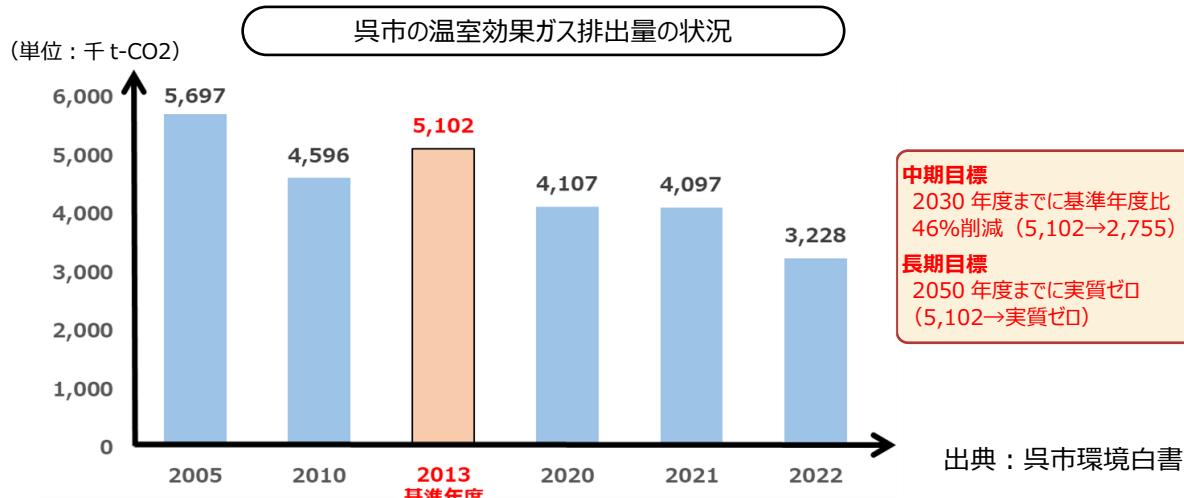
重点化項目⑥ 環境保全と循環型社会の構築

目指す姿

自然と生物多様性が保護・保全され、自然が有する多様な機能を最大限に活用することで、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりに寄与しています。

現状と課題

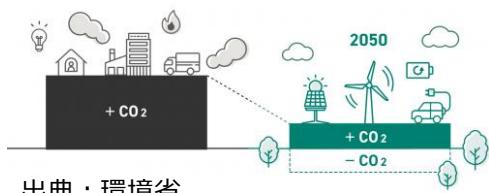
- ◆ 呉市の温室効果ガス排出量は減少していますが、さらなる削減が必要です。
- ◆ カーボンニュートラルの実現に向けた取組が必要です。
- ◆ 自然環境との調和や自然エネルギーの効率的利用などが重要です。



2050年ゼロカーボンシティ宣言

環境省では、「2050年に二酸化炭素（温室効果ガス）排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方自治体として公表した自治体」をゼロカーボンシティとしています。

呉市では令和5年3月に第3次呉市環境基本計画を策定し、「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しました。



出典：環境省

気候変動への適応の重要性

気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると、これまでの対策では対応できないおそれ

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2°C上昇相当	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

世界の平均気温の上昇を2°Cに抑えるシナリオ
(パリ協定が目標としているもの)

環境負荷軽減に向けた取組や、気候変動による降雨量の増加などに考慮した対策が必要

革新的なイノベーション
カーボンニュートラルなど

災害リスクの増大
流域治水など

自然との共生
グリーンインフラなど

用語解説

温室効果ガス…大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスなど）

カーボンニュートラル…温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロにする考え方

取組の方向性

◆ 環境に配慮したインフラ施設の省エネルギー化

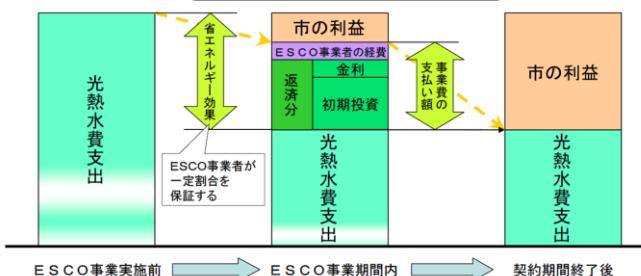
社会資本の整備・維持管理における環境への負荷軽減に資する取組を推進

道路・公園照明のESCO事業、自然エネルギーの活用、再生資材の活用、カーボンニュートラルへの取組

【道路・公園照明のESCO事業】



ESCO事業のイメージ



◆ 自然と共生するグリーンインフラ

自然環境が有する多様な機能を賢く利用するグリーンインフラを通じ、次世代を見据えた効率的・効果的な社会資本整備を推進

多面的な機能を有する公園の保全・活用、透水性舗装、生物多様性の保全、暑熱環境の緩和のほか、グリーンインフラ官民連携プラットフォームを活用し、多様な主体の積極的な参加を促す取組

グリーンインフラのイメージ



グリーンインフラ官民連携プラットフォーム			
会員	活動内容	会員	活動内容
都道府県 市区町村	① グリーンインフラの推進 ポータルサイトでの情報提供、アドバイザーの派遣等	関係府省庁	② グリーンインフラの社会的な普及 シンポジウム・セミナーの開催、アイデアコンテストの実施等
民間企業 学術団体等	③ グリーンインフラに係る調査・研究 課題の共有・整理、解決策の検討、事例の共有、評価手法の検討等	個人	④ グリーンインフラ推進のための資金調達 グリーンボンド等の民間資金を活用した取組事例の紹介等

◎ 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

出典：国土交通省

指標

指標名

現状（R6）

目標（R12）

調整中

ESCO事業…省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費の削減分で賄う事業

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム…国、地方公共団体、民間企業、大学・研究機関など多様な主体が幅広く参画し、グリーンインフラの社会実装を推進するために令和2年3月に設立

III 社会資本マネジメント方針

4 三つの基本方針を効果的に進めるための施策

施策① 公共工事の品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保

施策の必要性

建設業は、地域の雇用・経済を支えるとともに、災害復旧などの迅速な対応の担い手であり、地域にとって重要な役割を果たしています。

建設業が将来にわたって、その重要な役割を果たしていくためには、現場を担う技能労働者（技能者）の高齢化や若者の減少といった構造的な課題への対応を一層推進し、建設業を支える優秀な担い手を確保・育成していく必要があります。

取組の方向性

◆ 建設業の担い手確保・生産性向上・地域における対応力強化

担い手3法の改正を踏まえ、建設業の担い手確保・生産性の向上・地域における対応力の強化のため、適正な工期設定、施工時期の平準化、i-Constructionなどの取組を推進

i-Construction の例



出典：国土交通省

◆ 建設キャリアアップシステムの普及・活用促進

技能者に対する適正な評価・処遇の改善を図るため、技能者の保有資格、現場の就業履歴等を業界統一のルールで登録・蓄積する建設キャリアアップシステムの普及・活用を促進

建設キャリアアップシステムの概要



用語解説

i-Construction… ICT技術の全面的な活用により建設現場の生産性向上を目指す取組

施策② インフラDXの活用

施策の必要性

生産年齢人口が減少する中、持続的にインフラ整備と維持管理、そして新たな付加価値の創出、生産性向上を図るためにも、建設分野でもデジタル化は不可欠です。

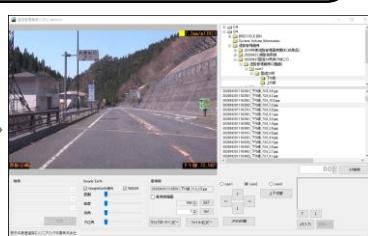
人口減少・少子高齢化による労働力不足や災害激甚化、インフラ老朽化等、環境が変化する中、社会経済状況の激しい変化に柔軟かつ素早く対応するため、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進を図ることが求められています。

取組の方向性

◆ デジタル技術を活用した効果的・効率的なインフラマネジメントの推進

IoTやAI、ドローンなどのデジタル技術を最大限に活用し、より効果的・効率的なインフラマネジメントを推進

道路画像を用いた路面評価システムによる舗装点検



※車両にカメラを搭載し、走行しながら調査できる技術。従来の点検技術と比較して約90%のコスト縮減と約80%の工程短縮の効果

ドローンを活用した橋りょう点検

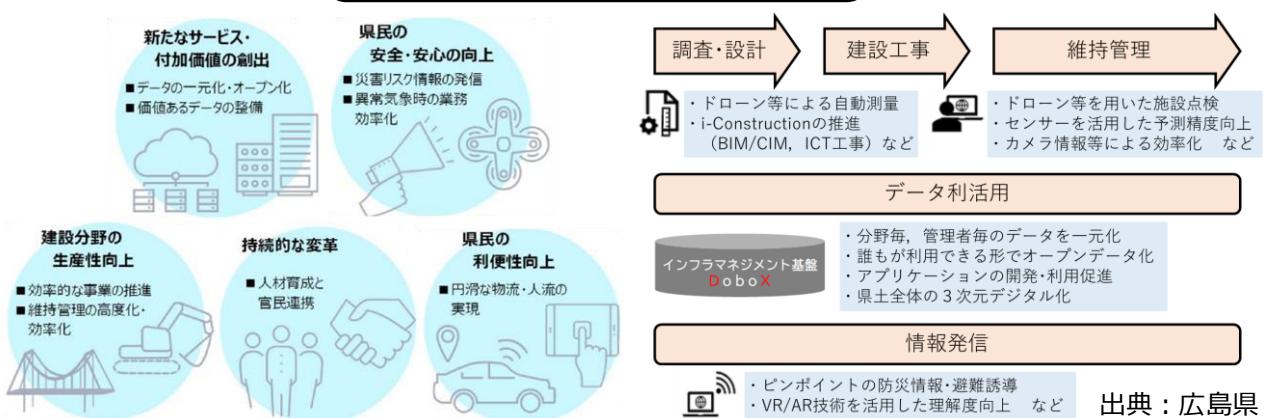


※高所における点検員の安全性を確保。
交通規制及び交通誘導員を省略可能

◆ 広島デジフラ構想と一体となった取組の推進

広島県が取り組む広島デジフラ構想と一体となり、道路や河川などのインフラに関するあらゆる情報の管理者の枠を超えての連携や利活用等を推進

広島デジフラ構想



出典：広島県

広島デジフラ構想…広島県が取り組むデジタル技術やデータを活用したインフラマネジメント

III 社会資本マネジメント方針

4 三つの基本方針を効果的に進めるための施策

施策③ 多様な主体との連携

施策の必要性

快適で魅力あふれるまちづくりのため、住民・NPO・企業など多様な主体と連携・協働した取組を推進し、公共施設への愛着心の醸成や、環境にやさしい公共空間の保全と創造を図り、社会資本を活用したにぎわいの創出や地域価値の向上に取り組む必要があります。

また、民間の技術力やノウハウ、資金等を活用した効果的かつ効率的な公共施設の整備・管理・運営など、質の高い公共サービスを提供するため、官民連携にも取り組む必要があります。

取組の方向性

◆ 今後の地域づくりの基軸を担う新たな公との連携

新たな公共サービスの担い手としての地域住民や企業等との連携を推進

(呉市ふれあいロード推進事業、呉市ふれあいリバー推進事業、ふれあい花壇、公園管理事業 など)

【呉市ふれあいロード推進事業】



【ふれあい花壇】



◆ 最適な公共サービスを提供するための官民連携

将来にわたる社会的コストの低減と、新たな公共価値を創造するため、官民連携によるインフラマネジメントを推進

(音戸の瀬戸公園の再整備、PPP/PFIの推進、ネーミングライツの推進、

指定管理者制度の活用 など)

音戸の瀬戸公園の再整備

民間による便益施設の設置と併せ、公園の再整備を官民連携により実施し、観光・交流拠点として地域の活性化やにぎわいを創出

【民間との基本協定締結式 (R7.4)】



【再整備のイメージ】



※イメージパースは、CCKグループによる応募時点(R6.11)の内容

※イメージパースの著作権は、CCKグループに帰属するため転載禁止

用語解説

ネーミングライツ…公共施設等に企業（団体）名や商品名などを冠した愛称を付ける権利のこと



施策④ 施策の点検と事業の見える化

施策の必要性

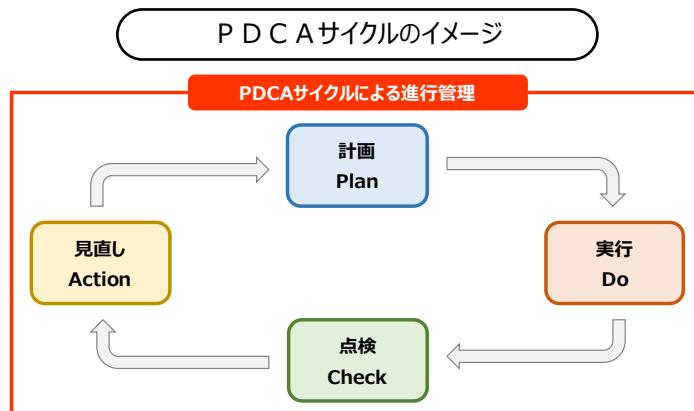
社会情勢の変化や市民ニーズ等に的確に対応するとともに、客観性や透明性を確保しながら施策や事業を推進するため、総合的な点検を行い、事業計画の改善・見直しに反映させるなど、適正な事業執行に取り組む必要があります。

また、公共事業の効果や必要性を広く市民に伝え、理解を深めてもらうため、分かりやすい情報提供に取り組む必要があります。

取組の方向性

◆ 変化する社会情勢に対応したPDCA

社会情勢を注視しながら、PDCAサイクルによる進行管理を徹底し、社会資本の整備を推進



◆ 公共事業の説明責任・理解を深める事業の見える化

事業の必要性や目的をわかりやすく説明することで、アカウンタビリティの向上や円滑な事業環境を整えるため、事業の見える化を推進

【小学生を対象とした出前講座 (急傾斜地崩壊対策事業)】



【呉市HP上の取組 状況の見える化】



アカウンタビリティ…施策及び事業の必要性に対する取組などを説明すること（説明責任）

IV 実施計画

1 実施計画の概要

- 後期 5 年間（令和 8 年度～令和 12 年度）で呉市が実施する道路、河川、急傾斜、公園事業の実施箇所（舗装補修、河川しゅんせつ等の維持関係を除く。）を示しています。
- 呉市事業箇所一覧は、令和 8 年 3 月時点の事業実施の目標を示したもので、今後の社会経済情勢の変化等により、変更することがあります。
- 災害や点検の結果等により、緊急的な対応が必要となった場合には、この事業箇所一覧以外の箇所であっても対応します。
- 県の事業箇所については、広島県が策定した各種整備計画で定めた箇所を示しています。
- 国の事業箇所については、現在事業中の箇所及び呉市が計画期間内に事業着手を重点的に働き掛ける箇所を示しています。

（1）道路

- ・ 道路改良事業は、日常生活における通行の安全性・利便性の向上に加え、消防・救急・防災活動などを支える道路及び地区のアクセス強化を推進する道路の整備を実施します。また、他の事業と一緒に進める必要がある道路の整備を実施します。
- ・ 交通安全事業は、児童生徒が安全に通学できるよう、呉市通学路交通安全プログラムに基づく対策を実施します。また、市民の安全で快適な生活を支えるため、人にやさしい歩行空間の整備などを実施します。
- ・ 橋りょう耐震補強事業は、災害時における安全な避難路や物流ルートを確保するため、重要物流道路や緊急輸送道路を構成する橋りょうの耐震化を優先的に実施します。また、交差する道路や鉄道への落橋による二次的な被害を防止するため、重要物流道路や緊急輸送道路及びＪＲ呉線をまたぐ橋りょうなどの耐震化を実施します。

改築系 (単位:路線)				補修系 (単位:箇所)			
区分	完成	継続	合計	区分	完成	継続	合計
道路改良	12	6	18	橋りょう耐震補強	4	4	8
交通安全	8	1	9				
合計	20	7	27				

※ 表中の橋りょう耐震補強の箇所数は、重要物流道路、緊急輸送道路の橋りょうのみを記載しています。

(2) 河川

気候変動に伴い激甚化・頻発化する大雨や台風等によってもたらされる河川の氾濫を防ぎ、地域住民の安全確保や地域経済の安定を図るため、ぜい弱な護岸や断面の不足している河川などについて、改良などを実施します。

(単位：河川)

	完成	継続	合計
河川改良	15	2	17

(3) 急傾斜

がけ崩れによる被害から住民の生命を守るため、一定の要件を満たす斜面について、急傾斜地崩壊防止施設の整備を実施します。

(単位：箇所)

	完成	継続	合計
急傾斜地対策	15	0	15

(4) 公園

多様な人が出会い、交流し、滞在するにぎわい空間の創出を推進するため、人を中心のウォーカブルなまちなか公共空間の整備や、観光振興及び地域の活性化のための官民連携による公園の再整備を実施します。また、災害発生時において本庁舎や体育館と連携した防災中枢拠点として公園の防災機能強化を図ります。

(単位：箇所)

	完成	継続	合計
公園整備	1	2	3

計画期間：令和8年度～12年度（5年間）

対象施設：道路、河川、砂防、急傾斜、公園

投資予定額：**精査中** (国、県直轄負担金を含む)

※投資予定額は、社会経済情勢等により変動することがあります。

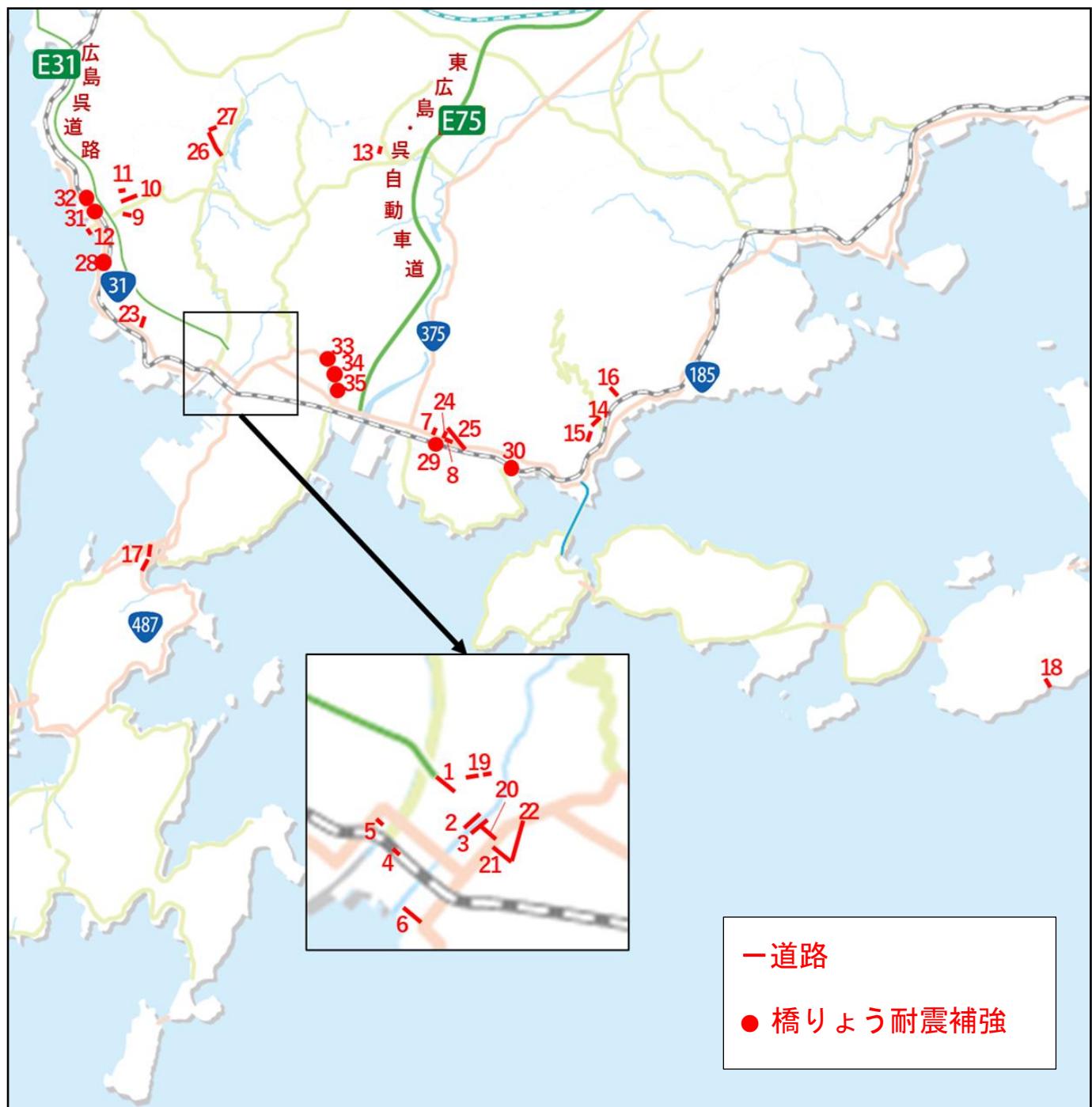
IV 実施計画

2 呉市事業箇所一覧

(1) 道路

区分	番号	路線名	区間	実施計画	
				完成	継続
改築系	道路改良	1	中央二河町線	西中央4丁目	●
		2	宝町本通線	中央3丁目~4丁目	●
		3	中通1丁目2号線	中通3丁目~4丁目	●
		4	呉駅前三条線	宝町	●
		5	三条3丁目4号線	三条2丁目	●
		6	幸町海岸線	幸町	●
		7	広駅前2丁目1号線	広駅前2丁目	●
		8	白石2丁目7号線	広白石2丁目	●
		9	天応西条4丁目4号線	天応西条4丁目	●
		10	天応西条3丁目7号線	天応西条3丁目	●
		11	天応西条3丁目8号線	天応西条3丁目	●
		12	天応大浜1丁目11号線	天応大浜2丁目	●
		13	桑畠地区内道路	郷原町	●
		14	川尻本線1号線	川尻町西3丁目	●
		15	岩戸団地大諏訪線	川尻町西4丁目	●
		16	久俊補助1号線	川尻町久俊1丁目	●
		17	坪井引地中道線外1路線	音戸町引地1丁目外	●
		18	沖友一周線	豊町沖友	●
交通安全	交通安全	19	呉駅前本通6丁目線	中央7丁目	●
		20	本通4丁目3号線	中通4丁目	●
		21	本通4丁目5号線	本町	●
		22	本通八幡町線	和庄1丁目	●
		23	吉浦東線	吉浦東本町2丁目	●
		24	白石2丁目2号線	広白石2丁目	●
		25	横路4丁目白石線	広白石3丁目	●
		26	焼山矢野線	焼山北3丁目	●
		27	押込西平1号線	押込西平町	●
補修系	橋りょう耐震補強 (ご線橋)	28	梅木大橋	梅木町	●
		29	広駅跨線橋	広中町	●
		30	仁方歩道橋	仁方本町	●
		31	長大橋	天応大浜3丁目	●
		32	伝十原5号橋	天応伝十原町	●
橋りょう耐震補強 (ご道橋)	橋りょう耐震補強 (ご道橋)	33	原横断歩道橋	阿賀北1丁目	●
		34	原第2横断歩道橋	阿賀北5丁目	●
		35	阿賀横断歩道橋	阿賀北9丁目	●

事業箇所図



IV 実施計画

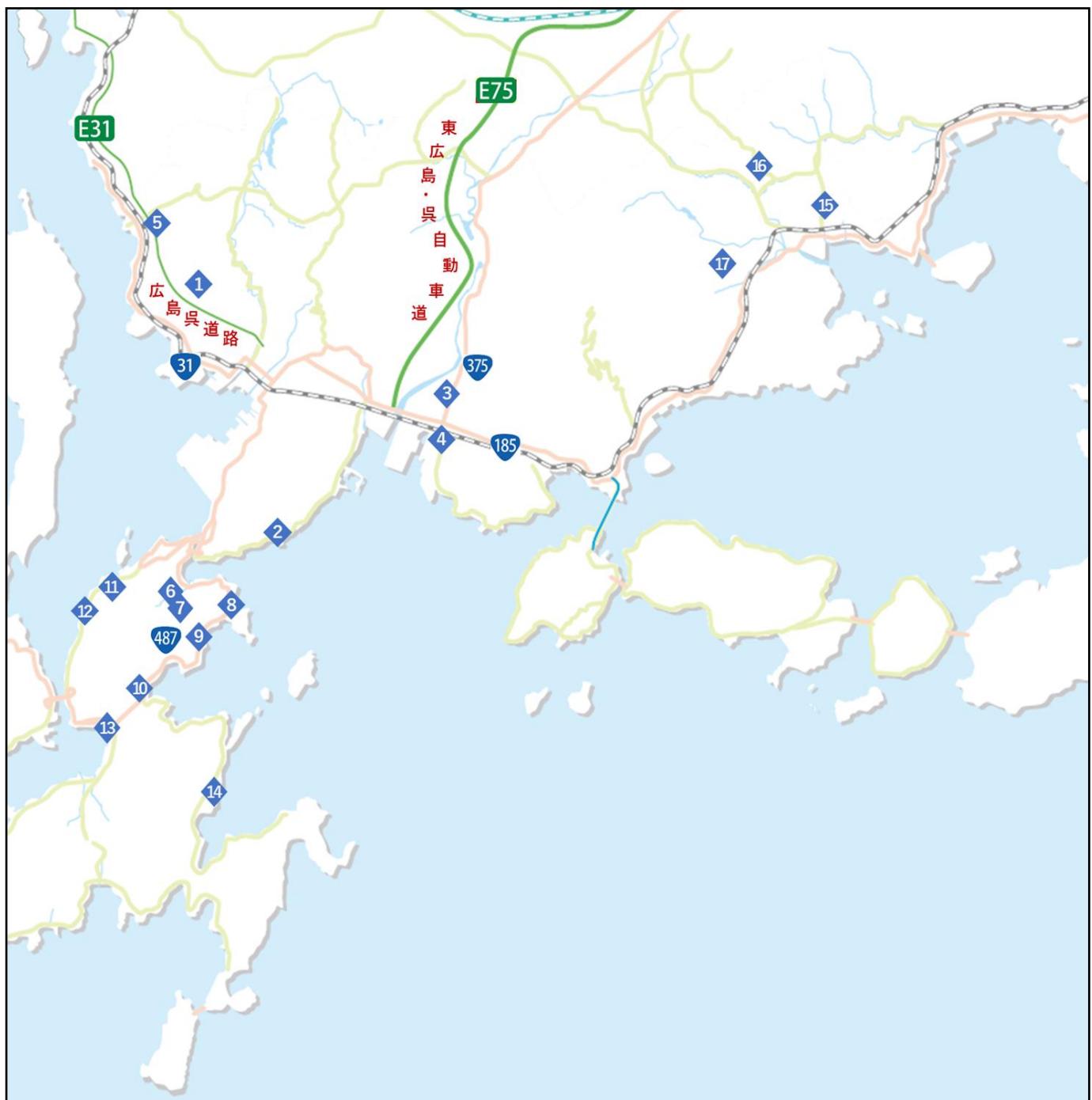
2 呉市事業箇所一覧

(2) 河川

番号	河川名	箇所	実施計画	
			完成	継続
1	吉浦大川	吉浦町	●	
2	冠崎川	阿賀南9丁目	●	
3	三坂地川	広古新開6丁目	●	
4	免田川	広名田1丁目	●	
5	山の垣内川	天応西条4丁目	●	
6	佃川	音戸町南隠渡1丁目	●	
7	黄幡川	音戸町高須1丁目	●	
8	郷川	音戸町波多見2丁目	●	
9	請石川	音戸町波多見10丁目	●	
10	明神川	音戸町先奥2丁目	●	
11	大神川	音戸町渡子3丁目	●	
12	土井川	音戸町田原2丁目	●	
13	境川支川	倉橋町釣土田	●	
14	寒那南川	倉橋町尾立	●	
15	三津口谷川（※）	安浦町三津口		●
16	赤向坂川（※）	安浦町赤向坂		●
17	内平川（※）	安浦町原畠	●	

※ 準用河川

事業箇所図



IV 実施計画

2 呉市事業箇所一覧

(3) 急傾斜

番号	箇所名	箇所	実施計画	
			完成	継続
1	東辰川10地区	東辰川町	●	
2	吉浦八幡神社下地区	吉浦宮花町	●	
3	広小坪2丁目地区	広小坪2丁目	●	
4	牛ヶ迫地区	神原町	●	
5	天応福浦12地区	天応福浦町	●	
6	小仁方地区	川尻町小仁方1丁目	●	
7	西4丁目地区	川尻町西4丁目	●	
8	渡子1丁目地区	音戸町渡子1丁目	●	
9	坪井2丁目地区	音戸町坪井2丁目	●	
10	波多見1丁目地区	音戸町波多見1丁目	●	
11	波多見9丁目地区	音戸町波多見9丁目	●	
12	向田地区	倉橋町釣士田	●	
13	鳴滝D地区	倉橋町灘	●	
14	納地区	倉橋町尾立	●	
15	瀬戸C地区	倉橋町鹿島上	●	

事業箇所図



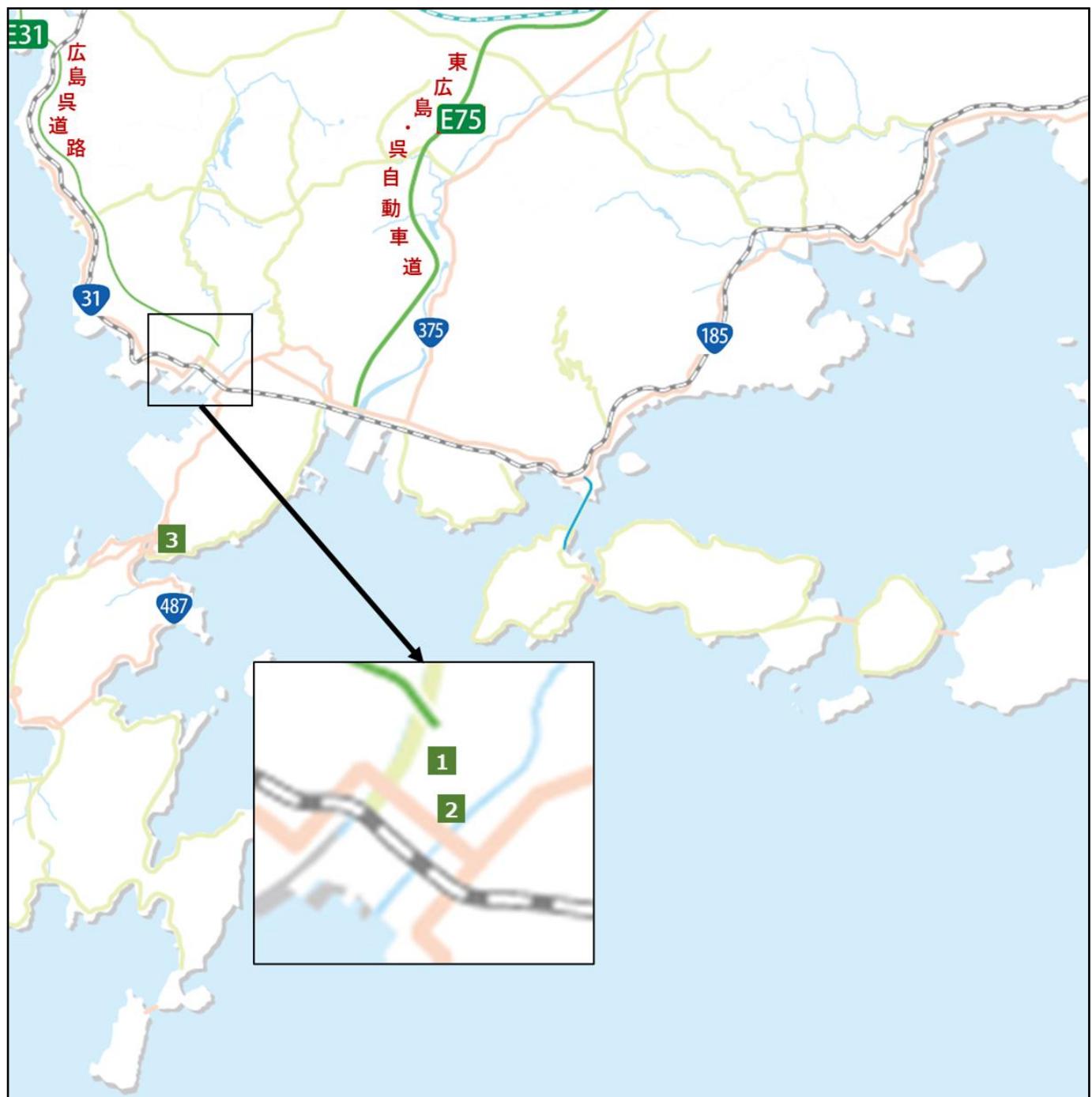
IV 実施計画

2 呉市事業箇所一覧

(4) 公園

番号	公園名	箇所	実施計画	
			完成	継続
1	中央公園（防災公園整備）	中央4丁目		●
2	中央公園（まちなか公共空間整備）	中央1～4丁目		●
3	音戸の瀬戸公園	警固屋8丁目	●	

事業箇所図



IV 実施計画

3 県事業箇所一覧

(1) 道路

区分	番号	路線名	区間	実施計画		
				完成	継続 (部分完成)	継続

調整中

事業箇所図

調整中

IV 実施計画

3 県事業箇所一覧

(2) 河川・海岸

河川

番号	水系名	河川名	箇所	実施計画	
				完成	継続

調整中

事業箇所図

調整中

IV 実施計画

3 県事業箇所一覧

(3) 砂防・急傾斜

砂防

区分	番号	箇所名	箇所	実施計画	
				完成	継続

調整中

急傾斜

区分	番号	箇所名	箇所	実施計画	
				完成	継続
				調整中	

事業箇所図



調整中

IV 実施計画

4 国事業箇所一覧

(1) 道路

番号	路線名	工区名	備考
調整中			

(2) 砂防

番号	河川名	箇所	備考
調整中			

(3) 計画期間内の事業着手を目指す場所

次の3箇所について、国へ重点的に働きかけていきます。

番号	路線名	区間	備考
調整中			

事業箇所図

調整中

1 SWOT分析による戦略の構築

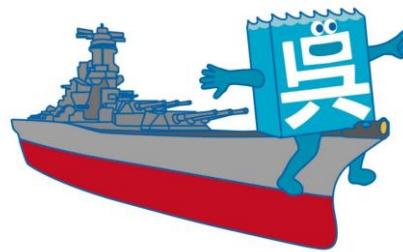
SWOT分析とは、戦略を企画立案する際に、外的・内的要因などの現状を分析する戦略計画手法の一つです。

様々な要素をStrength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）・Threat（脅威）の四つに分類し、マトリクス表にまとめることにより、課題が抽出され、その結果、解決策を導くための戦略が見つけやすくなるという特徴があります。

民間企業向けの手法であるSWOT分析を、本市の分析に活用するに当たり、S（強み）、W（弱み）、O（機会）、T（脅威）とマトリクスから導かれる領域・戦略を下表のとおり定義しました。

外的要因 / 内的要因	O（機会） 呉市の価値を高める社会潮流 (今後10年間)	T（脅威） 呉市の価値向上を阻害する社会潮流 (今後10年間)
S（強み） 呉市が持っている優れた「力と宝」	積極的領域 強みと機会を活かしていく領域	創意工夫領域 強みを活かし脅威を回避するとともに、機会と捉えて新たな戦略を生み出す領域 中・長期戦略
W（弱み） 呉市が持っている相対的に見ると不利な「力と宝」	改善領域 機会を活かし弱みを克服する領域	致命傷回避領域 来る脅威と弱みが相まって最悪の事態を回避する領域 中・長期戦略

※ 表中、【S（強み）】【W（弱み）】【O（機会）】【T（脅威）】の①～⑥は、各領域の重点化方針の①～⑥に対応しています。



S（強み）

- ③④広島呉道路（クレアライン）による広島市との近接性
- ③④東広島・呉自動車道による広島空港との近接性
- ③④⑤歴史的な背景により、充実したインフラが早期に整備
- ③④⑤放射環状型道路網の整備による近隣都市との強い連携
- ③④⑤代替性・多重性が一定程度確保された幹線道路ネットワーク
- ③④⑤河川改修の進展により、水辺空間に集積した都市機能
- ④歴史的価値のある土木施設の存在
- ④⑤多島美の景観と約300kmの長い海岸線
- ④⑤風光明媚でブルーラインが整備されたサイクリングロードネットワーク
- ⑤全国トップレベルの土砂災害対策の整備率

W（弱み）

- ①市内を占める高い土砂災害警戒区域の面積割合
- ①②全国平均を上回るインフラ施設の老朽化率
- ①②主要幹線道路が脆弱で、大雨による事前交通規制で分断されるまち
- ①②巨大地震、気候変動による沿岸被害のリスクの増大
- ①⑥気候変動のスピードに対応しきれていない河川
- ②高速道路網が暫定2車線整備であり、災害に対する乏しい復元・回復力
- ②定時性や速達性の確保が課題となっている空港アクセス
- ②現在の交通需要に対応できていない幹線道路

<p>O (機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②国が防災・減災、国土強靭化を強力に推進 ③経済のグローバル化の進展 ③技術革新の進展（DX・AI・ロボットなど） ④インバウンドの進展 ④着地型・体験型観光へのシフト転換 ④健康志向の高まり（食の安全、サイクリングブーム） 	<p>T (脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②異常気象と自然災害の激化・頻発化 ①②⑤低密度市街地の拡大や都市機能の拡散の進行 ⑤少子・高齢化、人口減少の進展 ⑤製鉄・造船業の衰退 ⑤空き家・所有者不明土地の増加 ⑥地球温暖化の進行
<p>③物流の効率化による生産性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性を大きく向上する高速道路ネットワークの機能強化 ・安全で円滑な物流を確保するための幹線道路ネットワークの整備 <p>④交流人口の拡大、観光周遊の更なる活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交流を支える高速道路ネットワークの機能強化 ・観光資源をつなぐ道路ネットワークの整備 <div data-bbox="181 1268 786 1358" style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>強みと機会を最大限に活用し、早期効用と相乗効果の発現を図る集中戦略が有効</p> </div>	<p>⑤持続可能なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業・地域づくりを支える道路ネットワークの整備 ・コンパクトで全ての人にやさしく、ゆとりとにぎわいのあるまちづくり ・総合的な交通安全対策 <div data-bbox="873 1235 1473 1358" style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>強みを活かして脅威を回避するとともに、機会と捉え、創意工夫により新たな施策展開を図る中・長期的な戦略が有効</p> </div>
<p>①激化する異常気象と自然災害に対する防災・減災、強靭化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨災害等からの創造的復興（再度災害防止対策事業） <p>②災害に強い道路ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要物流道路・緊急輸送道路等における橋りょうの耐震補強 <div data-bbox="181 1965 786 2088" style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>機会を活かして弱みを克服するとともに、今後の社会潮流の変化に対応していくため、柔軟な施策展開による集中戦略が必要</p> </div>	<p>①激化する異常気象と自然災害に対する防災・減災、強靭化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨災害等からの創造的復興 ・流域全体・総力戦で挑む治水対策 ・命と暮らしを守る土砂災害対策 <p>②災害に強い道路ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路ネットワークの多重性・代替性の強化 <p>⑥環境保全と循環型社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したインフラ施設の省エネルギー化 ・自然と共生するグリーンインフラ <div data-bbox="873 1976 1457 2066" style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>来る脅威と弱みが相まって最悪の事態を回避するため、着実な施策の実施による中・長期的な戦略が必要</p> </div>

V 参考資料

2 SDGs（持続可能な開発目標）の取組

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。平成27年（2015年）の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意し、令和12年（2030年）までに達成する、17の目標（ゴール）と169の具体目標（ターゲット）から構成されています。

呉市土木未来プランでは、施策に関連するSDGsの17の目標（ゴール）を示しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS		17の目標（ゴール）	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	【目標9】産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
	【目標1】貧困をなくそう あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる		【目標10】人や国の不平等をなくそう 国内及び各国家間の不平等を是正する	
	【目標2】飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する		【目標11】住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	
	【目標3】すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		【目標12】つくる責任、つかう責任 持続可能な消費生産形態を確保する	
	【目標4】質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する		【目標13】気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	
	【目標5】ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う		【目標14】海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	
	【目標6】安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する		【目標15】陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	
	【目標7】エネルギーをみんなに、そしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する		【目標16】平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	
	【目標8】働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する		【目標17】パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	